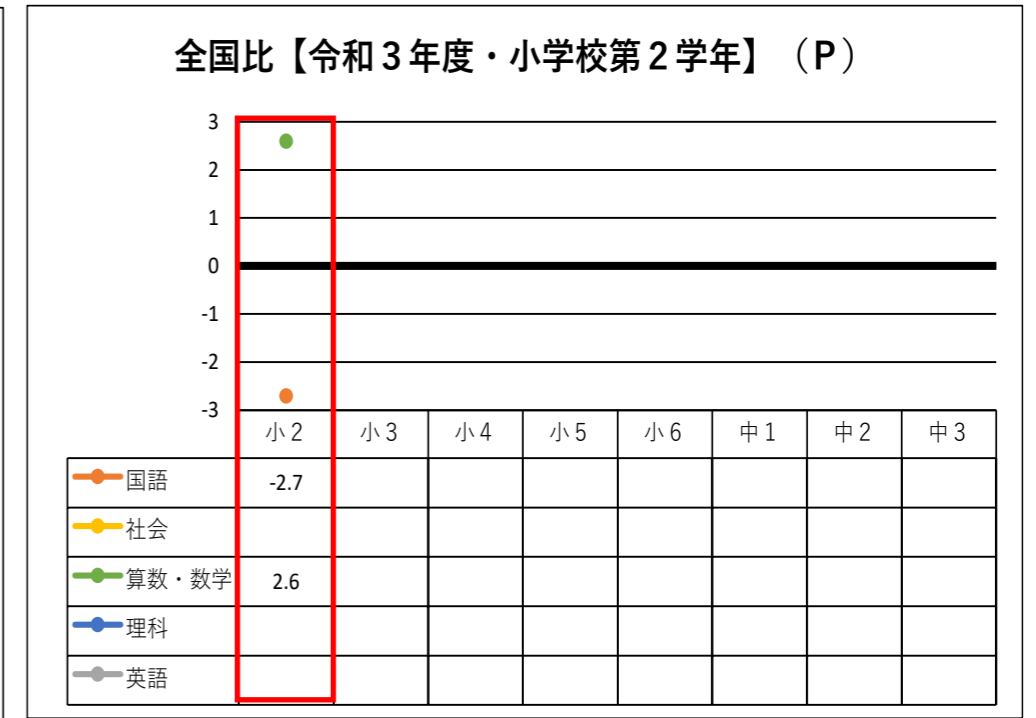
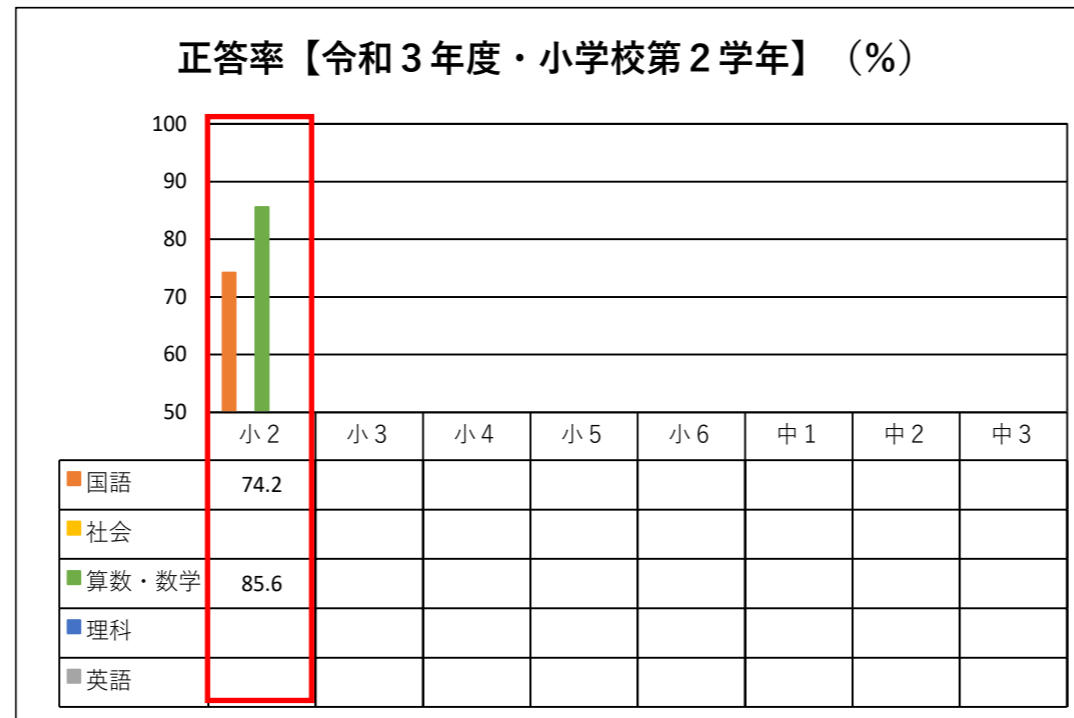
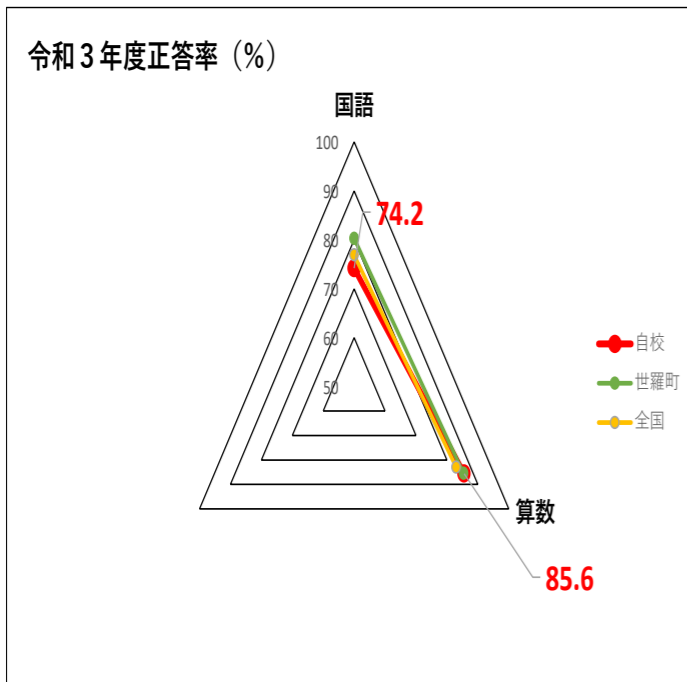


令和3年度標準学力調査 指導方法等の改善計画【せらにし小学校 第2学年】



教科	正答率 (%) 【全国比 (P)】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	自校正答率 【全国比】	児童の誤答の傾向と分析 (○)、教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための＜指導場面 (指導時期)＞と具体的な取組	目標値	検証値 【4月調査比】
国語	教科全体	74.2 [-2.7]	思考・判断・表現 6 (2) 語と語や文と文との続き方に注意しながら、文章を書いている。＜小学校1・2年思判表B (1) ウ＞	12.5% 【-13.7P】	○色と形を答える問題であったが、誤答の多くが色だけを答えていた。情報量が多く、題意を把握できなかったことが原因と考えられる。 ●前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考え、文章を書く指導が不十分であった。	＜書くことの授業 (7月・11月・2月)＞ 「語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。」を位置づけた単元により指導し、問題文の前後の語句や文のつながりを大切に、時間や事柄の順序を表す言葉を読み返す習慣を身に付けさせる。	正答率 50%	% 【P】
	知識・技能	89.6 [-1.9]						
	思考・判断・表現	64.3 [-3.3]						
	主体的に学習に取り組む態度	68.8 [+8.3]						
算数	教科全体	85.6 [+2.6]	思考・判断・表現 19 示された減法の式から、適切な文章問題をつくっている。＜小学校1年A (2) イ (ア)＞	62.5% 【+18.7P】	○式に合わせた問題文をつくる問題で、「何こ多いですか。」と書いた誤答が多かった。題意は把握しているが、引き算とたし算の場面の表現が混同したことが原因と考えられる。 ●加法や減法の式を具体的場面に結び付ける指導が不十分であった。	＜日常生活を想起させ問題文をつくる授業 (7月・11月・2月)＞ 日常生活から自分たちの興味・関心をもったことからの問題文を作成させ、具体的場面に基づいて数量の関係に着目し、問題文を作成する力を身に付けさせる。 ＜国語科の内容構成、構成の選択の授業7月・11月・2月＞ 相手や目的、意図に応じ書くことを選ぶことの指導を行い、その場に合わせた文章を表現できる力を身に付けさせる。	正答率 100%	% 【P】
	知識・技能	88.6 [+2]						
	思考・判断・表現	76.4 [+4.7]						
	主体的に学習に取り組む態度	70.8 [+1.2]						